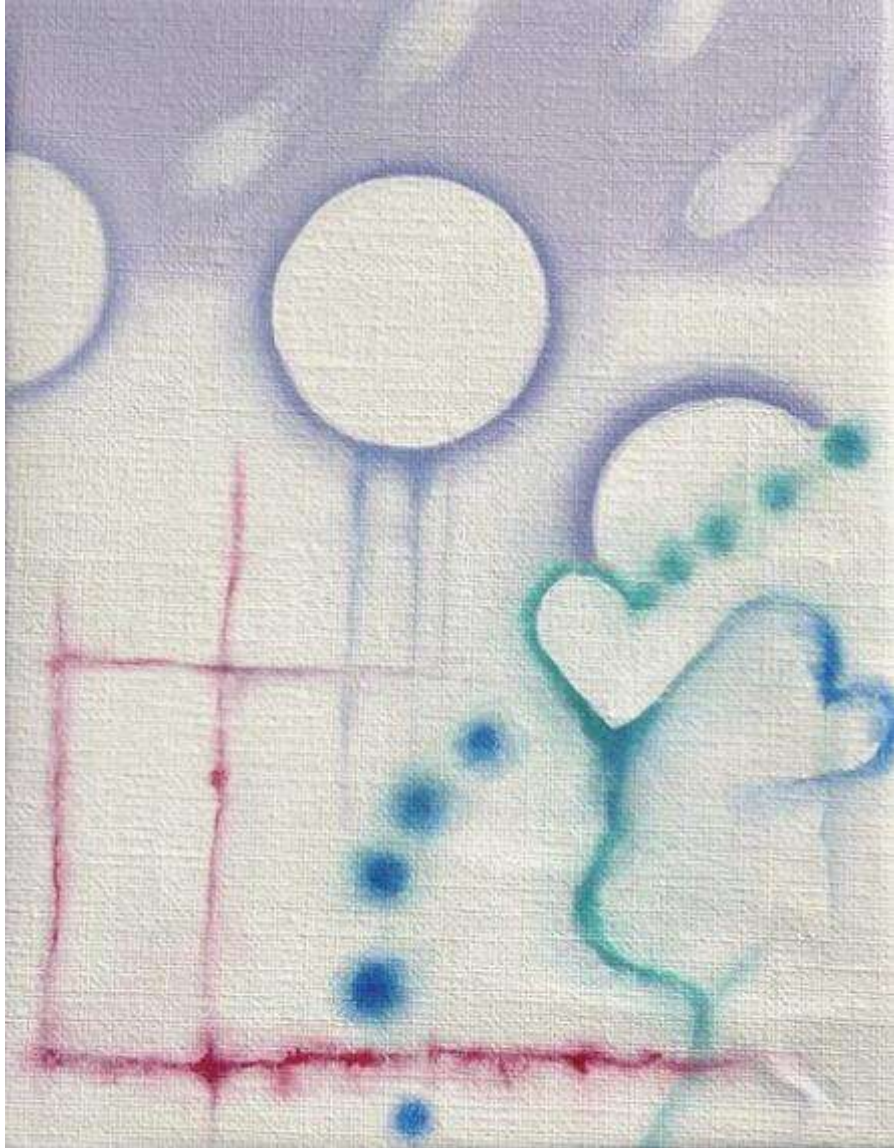


1



untitled

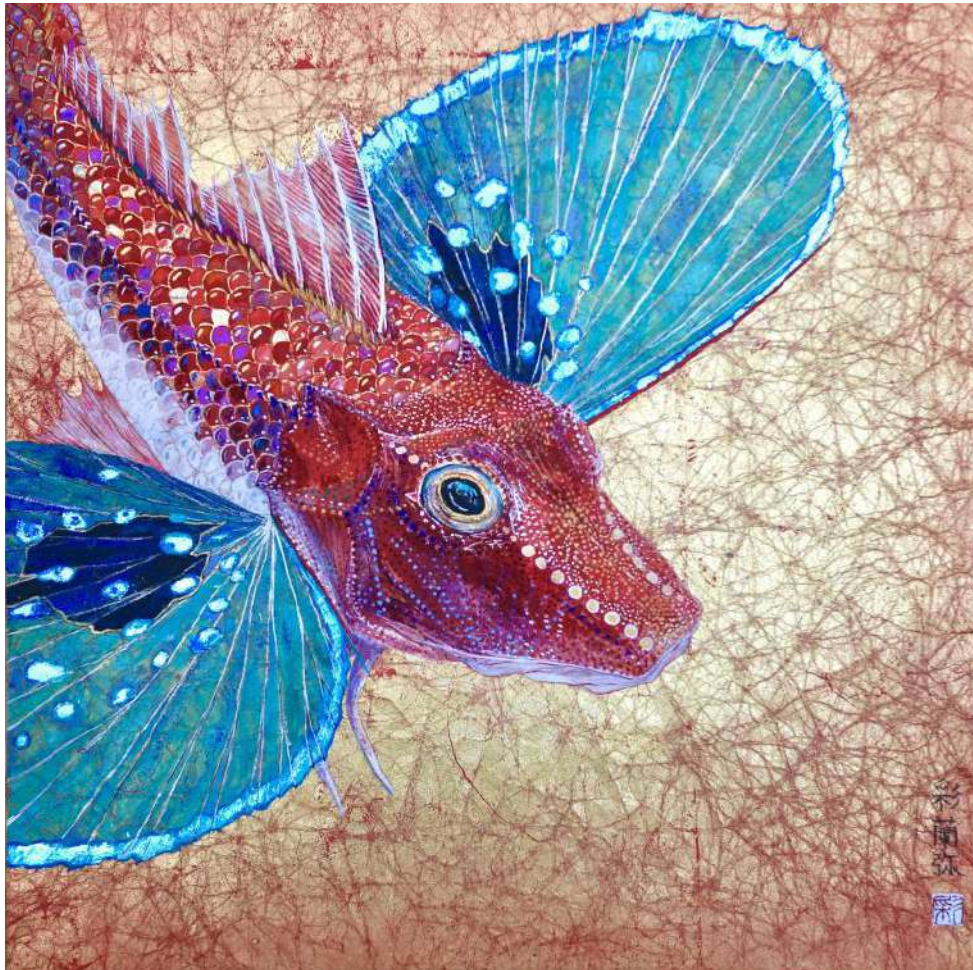
TOMOMI

東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻美術教育修了

この世界に身体を持って生きているという感覚をモチーフに制作。ドローイングのように即興的に描き始め、出てきた線や色面と、時間をかけて対話し、描き進めた。

キャンバス、油彩(額有)

180×140mm



空の持ち主

彩蘭弥(Alaya)

多摩美術大学日本画専攻卒業

ホウボウという魚はヒレの部分だけ目の覚めるような青色をしている。それはまる空を内包しているかのようなようだ。その鮮やかさ、愛らしさを揉み箔という技術や箔をふんだんに使って表現した。

和紙に和絵具、金箔、虹彩箔(額有)

420×420mm



窓辺

伊藤愛華

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業

どんより曇ったパリの街は降る雨さえも美しく情緒があった。雨宿りで入ったカフェの風景。

雲肌麻紙、岩絵具(額有)

242 × 333mm



馨香(けいこう)

伊藤寛人

東京藝術大学美術研究科芸術学専攻美術教育研究分野修了

トルコの伝統芸術であるエブルで染めた極薄の和紙と金銀箔、そして岩絵具による描写を二層三層と重ねることで、平面性の中に五感で感じる空間と時間の蓄積を表現することを試みた作品。金属箔・泥と和紙の重なりを効果的に用いることで、展示場の光の変化によって作品自体の見え方にも変化が起こり、違った味わいができるように制作した。

エブルを取り入れた紙本彩色(額有)

410×242mm



期待

近藤守

東京藝術大学美術科日本画科卒業

餌を待っているのかはたまたご主人を待っているのか？黒猫は綺麗な目をして何かを期待しています。

和紙に日本画、墨、金箔(額有)

273×220mm



微生物曼荼羅

(コエラストルム・テトラエドロン・クロステリウム)

島内梨佐

京都造形芸術大学美術工芸学科油画コース卒業

微生物たちは小さな世界で自由自在に生きています。輪を描き、多様な動きで広がっていきます。

ボールペン・紙(額有)

300×300mm



聴雨

周志雄

京都精華大学卒業

雨の日はいつも私に思い出のきっかけを与えてくれます。私は窓を見てぼんやりして、頭を空っぽにします。何気なく雨の景色を描きました。

岩絵具、墨、銀箔(額有)

220×273mm



クーズー、レッサーパンダ、白子熊

津田翔一

東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

動物が好きな方や子供がみたらどのような反応をするのか思い浮かべながら、おもいを込めて描いた小さな作品です。お子様がいらっしゃる方や、大切にしていただけの方のお手元に置かれたらとても嬉しいです。

ケント紙に色鉛筆(額有)

280×220(上段2枚)、220×280mm(下段2枚) 4点1組



Hana-艶- (ガラス絵)

平野えり

武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

言葉に表しきれない日々の想いを線に込め、
死生観を制作のテーマに描いています。
ガラス絵は客観的な要素を重視し、制作して
います。

油彩、親和金箔、銀箔、アルミ箔(額有)

270×270mm



牡丹

山中翔

東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻修了

植物をモチーフとした作品は、風景画と並んで学生時代から繰り返し描いています。日本画材の材質感を植物の美しさに昇華できるように、毎作試行錯誤しています。

紙本彩色(額有)

380×455mm